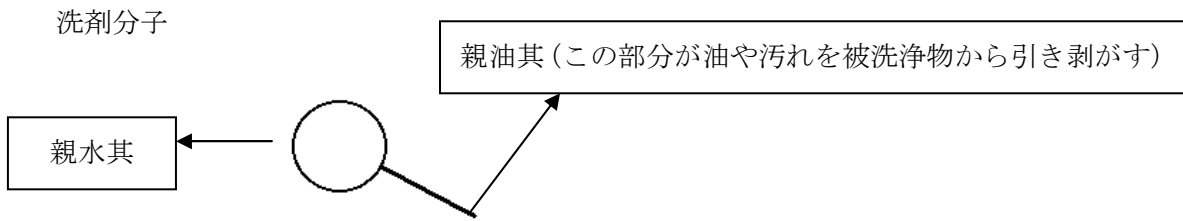


<参考>図1 油分解の仕組み



一般品	【アースガイアクリーン】
<p>油・汚れ</p>	<p>油・汚れ</p>
<p>汚れや油も高分子状態のまま洗浄分子で除去しようとするため、当然界面活性剤量が多く必要となる。</p>	<p>汚れや油を微細化(微粒子化)してから除去するため、界面活性剤量が少量で済む。</p>
<p>汚れや油の粒子が大きいため油紋や再付着、オイルボールの発生などにより、『油の二次汚染』を引き起こす。</p>	<p>汚れや油が微細化するため、その分子間に水が入ると、分子間距離が広がるため再結合できず、油紋やオイルボール、再付着ができない状態になる。</p>